

## Frequency and Predictors of Dysplasia in Pseudopolyp-like Colorectal Lesions in Patients with Long-Standing Inflammatory Bowel Disease

E Cristofaro, E Lolli, S Migliozi. *Cancers*. 2023 15, 3361. IF 5.2 (2022)

### 【要旨】

**背景および目的：**炎症性腸疾患（IBD）に伴う大腸癌リスクの増加が知られているが、IBDに関連する偽ポリープ（pseudopolyps）の特徴は明らかになっていない。本研究は、長期間の大腸 IBD 患者における偽ポリープ様病変の異形成（dysplasia）頻度とその予測因子の評価を目的とした。

**対象と方法：**大腸 IBD 患者（中央値 192 ヶ月の病歴）で、偽ポリープ様病変が生検または切除された 105 名（潰瘍性大腸炎 80 名、クローン病 25 名）。研究デザイン：後ろ向き、単施設研究、期間：2021 年 4 月から 2022 年 11 月。偽ポリープ様病変の異形成の頻度、異形成の予測因子を集計。

**結 果：**異形成の頻度は 105 例中 23 例（22%）で異形成が認められた。半数は過形成であった。予測因子として、年齢（OR 1.1,  $p = 0.0012$ ）、病変のサイズ（OR 1.39,  $p = 0.0005$ ）、右側大腸病変（OR 5.32,  $p = 0.04$ ）、免疫抑制剤/生物学的製剤の使用歴（OR 0.11,  $p = 0.005$ ）、左側大腸病変（OR 0.09,  $p = 0.0008$ ）、病変サイズと異形成の感度・特異度：5mm を超える病変の感度 87%、特異度 63%であった。

**結 論：**長期罹患 IBD 患者に発生した偽ポリープ様病変の約 4 分の 1 に異形成が認められた。異形成の多くは右側大腸に発生し、サイズが 5mm 以上であった。

### Take home message :

1. 長期罹患 IBD 患者に発生した偽ポリープ様病変の約 4 分の 1 に異形成が認められる。
2. 偽ポリープ様病変に伴う異形成の多くは右側大腸に発生し、サイズが 5mm 以上である。